

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 27 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520334

研究課題名（和文）20世紀スイスの国民統合と知識人の共同体
—未公開資料の文書館調査を手がかりにして研究課題名（英文）National integration of Switzerland in the twentieth century and
community of intellectuals—Based on archival research of unpublished materials

研究代表者

葉柳 和則 (HAYANAGI KAZUNORI)

長崎大学・大学院水産・環境科学総合研究科・教授

研究者番号：70332856

研究成果の概要（和文）：1930年代から40年代にかけてのスイスは、第二次世界大戦の当事国に囲まれた閉塞状況にあった。この時代、スイスの知識人は、「精神的国土防衛運動」に動員された。しかし、この運動に対する密かな抵抗を通して、彼らは閉塞状況を突破するための表現の可能性を探究していた。

研究成果の概要（英文）：From the 1930s to the 1940s Switzerland was situated in the blockade, surrounded by the parties of the Second World War. During this period, intellectuals of the Swiss were mobilized to the movement of "spiritual defense exercise". However, through subtle resistance against this movement, they explored the possibility of representation to break through the blockade situation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：出来事、物語、ナショナリズム、スイス

1. 研究開始当初の背景

20世紀スイスの知識人のテキスト生産に関する研究は、これまでの研究においては、スイスのおかれた地政学的状況とそこから生まれる国民統合の必要性について十分に光を当ててこなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、20世紀スイスにおける「国

民化プロジェクト」と「作家-メディア-批評家のネットワーク」の間に見出される言説の政治の諸相を——とりわけ両者の共生と抗争に焦点を当てて——明らかにすることにある。

3. 研究の方法

考察の座標軸を形成するのは、スイスの国民統合の表象の政治をめぐる「マックス・フリッシュ (1911-1991) の言説と行動」、および、1930年代のスイスの文化政策が生み出した「精神的国土防衛」運動である。本研究は、

両者を交叉させることによって構築される座標空間の中に、20世紀スイスを代表する作家、批評家の言説、および彼らの言説を流通させるメディアの役割を位置付ける。

研究の座標空間を設定するために、30年代以降冷戦終了期までのフリッシュの軌跡と「精神的国土防衛運動」の関係を詳細にたどる。そのために三つの系統の資料を収集・分析する。一つは、ジャーナリスト時代のフリッシュが30年代から40年代にかけて『ニューリヒ新聞』を中心としたメディアに寄稿した新聞記事、もう一つは同時代に発表した小説である。第三の系統は、「精神的国土防衛」時代のフリッシュが砲兵として従軍した際の日記と自身によるその脱(脱)構築の試みである。

4. 研究成果

上記三つのテキスト系列には、「国民国家スイスとフリッシュにおける記憶・忘却」というテーマが集約的に現れていると仮説を立てた。こうした三つの系統のテキストを、国民国家の「脱自然化」という今日の人文・社会科学のパラダイムと、『ベルジェ』報告のような資料が前景化するコンテキストの中で読み解いていった。

以上によって設定された座標上に、フリッシュ、デュレンマット、ら20世紀スイスを代表する作家、およびシュミット、シュタイガー、フォン・マットといった批評家の主要な発言を、そのメディアとの関係において位置づけた。

2009年度に、『ドイツ文学』(日本独文学会)に、これまでのマックス・フリッシュ研究を概観するレビュー論文を発表し、フリッシュを軸にして本研究を行うための基盤を確立した。その上で、小説『静寂からの返答』の内包する政治的含意、さらにはそれが1970年代末にフリッシュの著作集に収録から外される経緯における政治的および個人的抑圧について解明した。

2010年度には、(少なくとも現時点での知名度という点で)フリッシュの最も成功した小説である『シュティラー』における、妻殺しのモチーフを手がかりに、テキスト内におけるジェンダーをめぐる政治とそれをめぐる批評家たちの議論の道筋を解明した。また、1939年以降の総動員体制の時代に、フリッシュが新聞紙上に発表した従軍日記の読解を通して、当時のスイスの国民統合装置である精神的国土防衛とフリッシュの関係の諸相を明らかにした。とりわけ、戦後、スイスのナショナル・アイデンティティ政策に対する徹底的な批判者となったフリッシュが、動員時代に経験したトラウマ的とも言える「服従の経験」の意味を解明する手がかりを得たこ

とが重要である。

2011年度は、台北で開催された国際学会において、フリッシュにおける海表象について報告すると共に、それをまとめた論文を公表した。これは第二次世界大戦後期における戦争当事国に圍繞されながら(少なくとも表層においては)奇妙な平穏の中に置かれたスイスの市民たちの覚えていた閉塞感とそれを想像のレベルにおいて突破するための中心的表象としての「海」に解明の光を当てたものである。ここに批判的知識人としてのフリッシュの出発点を確認した。また、フリッシュの『日記 1946-1949』に収録された掌編「ストーリー」におけるキーフレーズである「汝、偶像をつくるなかれ」を、情動概念を手がかりにして、偶像形成と偶像破壊の精神史の中に位置付けた。これによって、「偶像」をめぐる虚構表現と学術的探究の関係の中に、フリッシュの偶像破壊の試みを定位することができた。

2011年から2012年にかけてはデュレンマットの戯曲選集の翻訳を分担し、『盲人』の全訳を行った。これは信仰/信じる心をめぐるデュレンマットの基本的問いが集約された戯曲であり、この邦訳によって初期のデュレンマットがキリスト教、さらにはナチズムをどのように捉えようとしていたのかについて、日本で議論するための1つの土台ができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

- ① 中村靖子：「汝、偶像をつくるなかれ」---フリッシュの掌編「ストーリー」に関する情動の生理学的考察(名古屋大学)、『名古屋大学文学部研究論集』、第58号、pp. 25-62、2012年3月。査読無。
- ② 葉柳和則：「戦争がまだ終わっていなかったとき---1944年のフリッシュのテキストに見る〈海〉表象」、『独文学報』(大阪大学ドイツ文学会)、第27号、pp. 27-51、2011年11月。査読有。
- ③ 葉柳和則：「国境の向こうで戦争が聞こえる---M・フリッシュの『背囊からの紙片』におけるネーションと「私」」、『独文学報』(大阪大学ドイツ文学会)、第26号、pp. 97-120、2010年11月。査読有
- ④ 中村靖子：「妻殺し」の夢を見る夫たち---M・フリッシュにおける非現実的なもののトポロジー(名古屋大学)、『名古屋大学文学部研究論集』、第56号、pp. 49-82、

2010年3月。査読無。

⑤ 葉柳和則:「言説の政治としての編纂—あるいは作者によって隠蔽された小説『静寂からの返答』の位置」、『独文学報』(大阪大学ドイツ文学会)、第25号、pp. 25-47、2009年11月。査読有

⑥ 葉柳和則:「研究文献概観—マックス・フリッシュ」、『ドイツ文学』(日本独文学会)、第138号、pp. 272-292、2009年3月。査読有

[学会発表] (計1件)

Kazunori HAYANAGI: Sea culture seen from the point of view of mountain culture---Representations of the ocean in a landlocked country, Switzerland ---シンポジウム: 東亞人物的移動與文化的多様性国際研討會 於: 台湾大学 (2011. 6. 10)

[図書] (計1件)

中村靖子: 『フロイトという症例』、松籟社、計374ページ、2011年2月。(平成二十二年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付による出版) 査読無。

[その他]

ホームページ: <http://h-semi.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

葉柳 和則 (HAYANAGI KAZUNORI)

長崎大学・大学院水産・環境科学総合研究科・教授

研究者番号: 70332856

(2) 研究分担者

中村 靖子 (NAKAMURA YASUKO)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 70262483

(3) 連携研究者

なし